

片桐 仁

(タレント、俳優、粘土造形家)



<プロフィール>

片桐 仁(かたぎり じん)

1973年、埼玉県生まれ。多摩美術大学在学中にコントグループ「ラーメンズ」を結成し芸能活動をスタート。2000年代からは俳優業を中心に活躍。粘土造形家としても多くの作品を発表している。

古賀春江《海》1929年

幼いころからアートに親しみ、芸術に造詣の深い片桐さん。明治時代から現代に至るまでのコレクションを擁する日本初の国立美術館「東京国立近代美術館」への思いを聞いた。



東京国立近代美術館 本館

東京都千代田区北の丸公園3-1

管理開始：2009年4月

管理内容：統括管理、設備・環境
衛生・植栽管理業務

管 轄：首都圏中央支社

美術館って自由で面白い！

初めて東近美（東京国立近代美術館）を訪れたのは、僕がまだ中学生だった1987年のこと。父と二人で「カンディンスキー展」を観に来ました。父親は建築関係の仕事をしていて忙しく、普段あまり一緒に出かけることはなかったので、美術館で肩を並べて作品を眺めた時間は、特別な思い出になっています。

東近美は今でもよく来ますが、所蔵作品が充実していて、重要文化財もじっくりと鑑賞できるのがいいですね。企画展ももちろん、コロナ禍に開催されていた所蔵作品による「眠り展」（2020）では、改めてコレクションの豊かさを実感しました。「この作品を見てほしい！」という学芸員の方の熱意を感じると同時に、収蔵庫にはまだ見ぬ名作たちが眠っていると思うとワクワクします。

ここ東近美は、近代の芸術家の創造力やエネルギーを生々しく感じ取れる場所です。でも、みんな難しく捉えすぎていて、作品よりも解説文を見てしまっている気がします。最初から正解を求めずに、よく観察したり、好き勝手に想像したり、自由に楽しめばいいですよ。こういう作品に惹かれるんだっていう、自分を知るきっかけになればいいと思っています。

この絵画、古賀春江さんの《海》は1929年の作品ですが、この時代に描かれたとは思えないほど、工場や潜水艦といった近代的なモチーフが印象的。男の子が好きそうな要素が詰まっています、どこかシュールで僕は好きな作品です。古賀春江さんって、実は男性画家なんですよ。男性であることを知ると、また違った視点で作品を楽しめるのもおもしろいです。

アートは自由そのもの。ぜひもっと気軽に美術館を訪れて、自分の感性で感じる楽しさを味わってください。そして、僕にとって美術館は、尊くて特別な場所。いつかはここで僕の粘土作品の個展を開催するのが夢です！

片桐さん手作りの猫型スマホケース「CatwailPhone」。猫の顔の部分のカメラレンズカバーを開けると…
かわいい見た目とギャップ萌え

